

12月 どうぐみだより

2018・12月号
尚徳福祉会 生麦保育園

暦の上では冬を迎えましたが、上着のいらぬ日も多かったように思います。サッカーやドッジボール、大縄などの遊び方が上手になり、「寒い」という子も「じゃあ動こう」と遊びはじめると数分で上着を脱ぐという姿が見られています。12月以降、本格的な冬が訪れ、さらに体調も崩しやすい季節になります。うがい・手洗いの基本的な予防をしっかりと行い、寒さに負けることなく新しい年を迎えられるようにしたいですね。



焼き芋会・高砂会交流

6月頃に植えたサツマイモの苗に、日々水やりをしたり、野菜くずの肥料をあげて育ててきました。芋ほりの季節となり、ついに収穫の日を迎えました。丸々と太ったサツマイモもあり、「こっち手伝ってー！」とみんなで協力してツルを引っ張り、たくさんのお芋が収穫できました。焼き芋会当日、焼き上がりまでは高砂会の方と交流し、折り紙やコマを教えてもらったり、一緒に遊んで楽しい時間を過ごしました。焼き芋はテラスに出て食べ、寒空の下で食べる焼き芋は美味しさも倍増！少し冷ましたものより、焼き立てあつあつのお芋が大人気でした。おやつの中には、自分たちで収穫した畑の芋の焼き芋も食べました。冷めてはいたものの、自分たちで採ったお芋は格別であつという間に食べていました。

芋づるリース作りました！

お芋ほりと一緒にリースも作りました。「どのくらいの○を作るの？」「このくらいかな？」と友だちと比べてみたり、手伝ってもらいながらリースの形を完成させていました。飾り付けには貝の浜公園へドングリ拾いに行き、「この葉っぱきれいだね」「これもつけられるかな？」とドングリだけでなく、落ち葉やドングリ帽子なども見つけて袋に入れていました。飾り付けでは、落ち葉の上にドングリを乗せてからリースにつけたり、赤や緑の葉をつけて色を足したりしながら、今年は自然物だけでできた温かみのあるリースができました。おたのしみ会では子どもたちのリースが会場にこの時期の季節感と温かさを加えてくれました。



おたのしみ会

合奏や劇遊びにおいて、使う楽器や内容、配役、台詞など「子ども会議」をしながら、子どもたちの言葉を大切にしながら準備をしてきました。日々の練習の中からできないことや難しいことがあると、自分のできる部分を見つけて内容を保育士と一緒に考え直す子もいれば、できるまで挑戦する子とさまざま。一人一人ができるようになることで自信と楽しさが見られるようになりました。少しずつ友だちと息を合わせることもできるようになり、子どもたちの関係の深まりも感じました。

迎えた当日は、ワクワクした表情を見せつつも、「緊張する」という声もありました。しかし、舞台上に立つと堂々とした姿がみられ、合奏や劇が終わり舞台袖に下がると、保育士に手を出し、ハイタッチを子どもの方からしてくれました。子どもたちのやり切った表情がとても明るく、晴々としていました。



あたたかい応援、最後までありがとうございました！